

## ふるさと木曾活性化事業

### 取組に至る背景・事業の目的

低迷する木曾地域の活力や元気を取り戻すためには、郡内の異業種の人たちが積極的に連携を図り、交流を深め、具体的に行動を起こしていくことがとても重要である。

そこで 40 人余りのメンバーが在籍する木曾交流創造塾では、地域を元気にし、東日本大震災からの復興を支援するため、「まちづくり落語会」を開催する。

また、東京の居酒屋を借りて地場産品の委託販売や地域PRなどを行う。9月中旬には、スローフード交流会を開催し、木曾地域の伝統野菜をはじめとする農産物や加工食品などを提供し交流を行う中で、木曾の観光PRに努めるとともに地場産品の販路拡大にも力を注ぐ。

### 事業内容

- まちづくり落語会  
5月12日、上松町で三遊亭歌之介師匠の「まちづくり落語」を開催し、地域住民のやる気と元気を引き出すように努めた。
- 特産品販売等  
東京の居酒屋「なみへい」を借りて8月から10月までの3か月間、特産品の販売、9月は地元食材の提供を行い、地域の観光や物産のPRを実施した。
- 木曾スローフード交流会  
9月15日、木曾の食材や特産品などを使って交流会を実施し、地域PRと特産品の消費拡大に努めた。



【居酒屋で行ったスローフード交流会】

### 事業効果

上松町で三遊亭歌之介師匠の「まちづくり落語会」を開催し、200人を超える来場者を迎え、笑いを通して地域づくりやまちづくりに対する住民の意識を高めることができた。

また、東京神田にある居酒屋・全国うまいもの交流サロン「なみへい」では、8月から10月まで3か月間にわたり特産品を販売、また、9月には店の料理に木曾の食材（木曾牛、開田そば、トウモロコシなど）を使用してもらい農産物等の宣伝をすることができた。

さらに9月15日には木曾スローフード交流会を開催し、木曾の飲み物、地場産品などを囲んで都市の皆さんと意見交換を行い、木曾の自然や観光、特産品などを大いにPRすることができた。3か月間では千人を超える来場者があった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

まちづくりにおける住民意識高揚の手段として落語会は、とても親しみやすく好評だった。

また、東京の居酒屋「なみへい」を使っての物販や食材の提供、交流会などについては、継続することでその成果が現れてくると思うので、単発で終わらせるのではなく、今後も独自の事業として継続することが重要だと思われる。

**【選定のポイント】**  
落語を取り入れた地域づくり活動は親しみやすくユニークで、幅広い参加者があった。東京の居酒屋での「木曾スローフード交流会」とともにモデル性が高く、他団体の参考となる取組だった。  
東京でのアンテナショップなど、事業の成果が地域で広く普及することが期待される。

団体名 木曾交流創造塾（木曾町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 090-2526-7156	事業費	767,022円
	支援金額	754,000円